京城新報

陰曆十月二十五日
發行兼編輯人 印刷人 山下英爾
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三

伊藤統監の爲に惜む

報知新聞轉載

伊藤統監は今回韓國皇帝より太子の太師と爲し、且親王の禮を以て待つ旨、恩命に接したる由にて詔勅の全文は昨日の本紙に掲載したるが如し。

統監が太子の太師となりたるは韓國指導の上に將來少からざる便宜を與へられたるものにて韓國皇帝が我國に信頼せらるゝ眞意も諒せられ、日韓兩國の關係を親密ならする爲、統監が他日の皇帝たるべき太子を輔導すべき任に當りたるは最も悅ぶべきことなり特に韓國太子は來月初旬を以て統監と共に本邦に來航せられ、學業を修めらるべき答なれば、統監が太師として常に太子の敎育に關して注意誘論するは必要のことなるべし。

統監が太子の太師となれるは大に善し、然れども統監が親王禮遇の恩命を拜受したるは余輩未だ其可なる所以を知らず、蓋し韓國を統治經營する爲め、統監が親王の禮遇を受くるを以て必要なりとすれば或は已むを得ざるべしと雖も、前後三回の日韓協約は本邦が韓國に對する權力を確定し、統監の位地權力も亦隨つて確定せられたれば、韓帝の勅語中に所謂親王の禮を以て之を待ち、位百僚の右に在るべしとの沙汰なくとも統監の位地權力は儼然として韓國百僚の上に在るべきは何人か之を疑ふものあらんや。果して然らば統監が今回親王の禮遇を賜はりたるは、韓國統治の上には何等の必要なかりしが如く、唯統監伊藤公爵の一身を榮ならしめたるに過ぎざるに似たり、統監は果して之を以て榮なりとする乎、世俗の見を以てすれば或は之を榮とすべし、然れども統監其人にして之を榮とするは余輩の取らざる所にして且之を惜む所なり。

今日本邦文武百官中人爵の高きこと誰か統監に比肩し得べき者ぞ、統監の榮極まれりと云ふべく、宜しく蹇々匪躬の節を致すべし、統監が政治家として數十年國事に盡したる功績は余輩の決して忘れざる所にして其眼光高くして計畫の才長じたるは常に之を稱贊するに吝ならざるものなり、唯統監の病とする所は餘りに名譽を好むに在り、名譽を好むは必しも不可なしと雖も、之を好むこと過ぐれば其人格を損ずる勘からず其功績に伴ふべき名譽は大に稱すべしと雖も、今回統監の拜受したる親王禮遇の如きは統監の名譽に於て何の加ふる所あらん、而して是が爲に統監の人格に累する所は頗ぶる多き者なくんばあらず、我保護國韓廷の親王禮遇の如きは敢て重視するに足らざれども、我帝室と韓廷との御交際は依然として變ること無ければ、韓國の親王禮遇は我國に於ても決して之を輕視すべきものに非ず、我國に於て昔時人臣にして准后と爲りたる人あれども、准后とは三后に准して禮遇せらるとの義に非ずして三后に准する年官年爵を賜はるとの義なり、伊藤統監の親王禮遇とは其義を異にせり。

夫然り統監が今回拜受されたる親王禮遇が統監の名譽に毫も加る所なくして、徒に之に累するものなるとは余輩の贅說を待たずして聰明なる統監の夙に看收せられたるものなるべきを信ず、然るに統監が未だ此恩命を辭退せりとの報に接せざるは余輩の竊に惑ふ所にして且統監の爲に惜む所なり。

タフト氏と比島

米國陸軍卿タフト氏が比律賓議會開院式に於てなしたる演說の大意左の如し

二ヶ年以前に當地に於て發表したる比律賓獨立に關する余の意見は今日と云へども些少だも異る所あるなし左れど余は尙ほ渺なくも三十年の修養を積むにあらざれば比律賓人は自治の民たる事能はざるべしと信ず而して此大事業を遂行するは即ち議會の一大任務たるなり合衆國が比律賓群島を某國へ讓渡さんとの說を傳ふるものあれども合衆國は斯の如き行動を敢てするものにあらず余は比律賓に對し多大の信用を有するものなり世には余は比律賓人が保守的に立法の任に當る能力なきに失望せりと傳ふるもののありと云へども是れ固より無根の妄說敢て辨解の必要あるを認めず余は比律賓人が其責任を解し合衆國を援助すべき必要あるを認むるものと確信す余は議會に對し斯く／＼の法律を制定せば可ならんこ指示するを欲せざれども議會が行政立法に對し多大の注意を加へんことを熱望す云々

哈爾賓の製粉業

哈爾賓を中心として北は呼蘭城東は寧古塔西は伯都納南は農安城等双城縣拉林河西岸一帶の地は從來小麥の產出夥多しく日露戰爭前に於ても製粉所を設くる者多かりしも戰爭の爲一時中絕の姿となり居たりし爲め一般に小麥の欠乏に困難を感じつゝありたるが今回露國人某松花江岸に一大製粉所を設け一晝夜の製造高三千乃至四千封度に達し又海林停車場附近に於ても清國人某氏は一千五百乃至二千封度を製造し得べき大工場を設けたる趣なるが目下同地方の凶作に際せる故前記の產額には達せざるべしと

韓國農業經營談(三)

（村井銀行主村井吉兵衞氏談）

▲特殊有望の小作制度　耕作上日本人を多數に入植せしむるには渡航費、居宅費、食料其他仲々多額の經費を要するを以て日本人の小作人一人に韓人數名を使役せしむる方針を採るを可なりとす、さすれば日本人が韓人を常に使役し渡航日本人が比較的大なる小作業を經營され其者の利益も大なるに至るべし一例を擧ぐれば、內地に於て一町歩を耕すもの韓國にあつては十町歩を耕し得らるべく、十町歩より二百卅石を收穫せば內百石を地主に收むるとしても小作人は百卅石を收得され一石十二圓とし小作人の收益千五百六十圓となる之より韓人に拂ふ勞働賃、生活費等を控除しても尙ほ優に七八百圓の純利を擧げ得らるゝなり是れ內地に於ては到底夢想だにせざる所にして利益の大なること驚くべきなり余が村井農場の如き此の仕組に依り小作人を使用し彼等も非常に滿足しつゝある次第也

▲韓國耕地の選定法　韓國農業の經營につき注意すべきは土地の選定如何にありとす日本に於て飢饉と稱するは雨量の多き年なれども韓國にありては之と反對に旱魃の時に飢饉あり其の故は各山樹木なく禿山のみなれば水量の關係に出づるものなり、されば日本に於て豐作たるべき年に韓國に於ては凶作を見ることあり而して彼れ韓人は之に處するに灌漑を便ずるの道を知らず從來何等の施設もなきなり從つて土地を買入るゝに當つては此の關係を查察し地質の選定を最も誤まざる可らず韓國に於て耕地となれる今日の熟田を購ふては既に相當の價格に登れるより到底勘定に引合はざるものあり而も其の面積たる勢ひ狹隘なるが故一層資本に對する收益を減じ益々不引合に陷らざるを得ず依て土地の買收は少なくとも荒蕪地より指を染めざるべからずさすれば捨地とせられし所なれば其の價も頗る低廉にして從來韓人の企て及ばざりし改良を加へ塘堤水門等の設備を完全に爲すとも容易にして是迄更に顧るものなかりし荒地も一躍良田となるに至るは疑ひなし今日は最早韓國の南部に於ては良田として買收すべきものは甚だ少なし故に必ず灌漑、排水の事業を自在になし新田を作るの覺悟を以て低廉なる荒地を手に入れざるべからず此の方針を以て十分の選定を爲し大農組織の計畫を採る以上は何を苦しんで遙々テキサスに迄出掛くるの要あらんや其の得失は多辨を俟ずして明かなり韓國に我が邦人の農業經營を發展するは韓國に日本の勢力を扶植し日韓の關係を一層密接せしむる上に於て偉大の效果あるや論なし然るに之を捨て却て黃人として阻碍され動もすれば上陸を拒まるゝが如きテキサス等に農作を試みんとするは愚の極にあらずや

▲模範的農場を以て自任す　要するに韓國農業の事たる前途頗る有望の事業たり唯之が目的を達せんには小地主として困難なり勢ひ大地主となり大仕掛の組織的耕作法を採らざるべからず又日本人を可成多數に入れ韓人に制せらるゝことなく彼等を壓するの仕組を採らずんば成功の見込なし我が村井農場は此の主義を持し其の規模を大にし米國大農組織に則り農具其の他の器械を設備する點に於ても韓國農業の模範を以て任じ居るもの也、今後韓國に農業を經營せんとする者は總て米國流の組織を用ひ多數の小作人をして自治體的の村落を形成せしめ平時は業を勵み有事の時は一村義勇兵の姿となりて韓人に當るの決心を有するを要す僅に小資本を投じ韓人と伍して競ふは危險多く實收少なし我が村井農場は目下韓人農夫の上に余の出生地たる山城の小作人十數名を移入し之を監督せしめつゝあるが更に同地より三十餘名を募集し渡航せしむる筈なり斯くして韓國に一の山城村を建設したき希望なり今日韓國に於ける有望なる土地は南部なり北韓は今暫くして手を付くるを得策なりとす我邦人此の心を以て有利なる韓國農業の發展を試みんこと切望に堪へず（終り）

本年中 仁川白米商況(二)

仁川商業會議所調查

六月に入りては十日出帆の信濃川丸にて大連へ約千石十三日出帆の旺洋丸にて約七百石同地へ輸出あり而して當港より大連に航行すべき船舶は一ヶ月五回にして每便平均約七百石內外の輸出を見るに至れり當所書記長滿洲視察の談に依るに從來滿洲に於ける米穀の需用は軍用の拂下げ米によりて之を充たし居りしに漸次拂底となるに從ひ支那米は其味硬惡にして到底邦人の口に適せざれば新たに他より供給を仰ぐの場合となり本邦米の割高なるため自然韓米の需用を喚起したるに始まり支那人も一たび本邦米の美味を覺へ之に代ふるに自國米を以てすること能はず邦人は手撰一等精白米支那人は二等米を需用するの常習を致し貿易上一生面を開き今や滿洲は當港の經濟範圍に入らんとす韓米の新販路に就ては今後大に注目すべき價値あるべし蓋し昨秋京畿黃海兩道を始め其他各地の豐作なりしがため又は天候の順調は農家に多大なる安心を與へしものか正米の出廻はり例年に比して多きが如く場面は何時も强氣ながらも行きたへ中旬に入るも玄米及籾の如き澤山入津之あり白米は相變らず相應の輸出あり相場は、磨擦石拔米十五圓二十錢次品十四圓八十錢なりしが月末に至り正米市場は好氣配を呈し相場幾分高保ち合にて阪地も餘程好況を傳へられ精白米は正米高に連れ相場石拔米十五圓四五十錢次品十五圓十錢を唱へ二三十錢方の騰貴を見るに至れり

七月に入るも阪地の氣配極めて好良なると米の端境期に入り出廻はり薄となりたため相變らず好況にて輸出も依然維持せられ殊に大連方面へも續々輸出行はれ一ヶ月約七八千石は積出す樣の次第にて磨擦米は益々高直を示し隨て現料も下落の見込なかりしが中旬頃當地三井物產會社と韓人との間に大取引出來又日本よりも買手現はれ大連へも不相變輸出盛んに維持せられ在米は減少一方に傾き月末に至りては各地より廻米多からず正米は五六十錢方騰貴して一等磨擦石拔米十五圓七八十錢方の見當となれり

八月となりても白米は不相變高保合にて賣行きは重もに磨擦米にて大連輸出の磨擦米は當港よりの輸出高一ヶ月約一万石の內七千石乃至八千石を輸出し當今貿易の大部を占め頗る好況を呈するに至れり中旬に於ても同樣不相變保ち合にて矢張り石拔一等米にて十六圓八九十錢にて大連の輸出は船便每に相應に行はれ月末に至るも依然好況を持續せり

九月に入りても月初めに信濃川丸は當港より精白米千三百石を積載して大連に向ひ其他義州方面へも船便每に各店より續々輸出し正米は相變らず入荷あり其重なるものは籾にして玄白米の如きも引續き廻着ありしも磨擦米は矢張り大連行のため各精米所共繁忙を極め取引も從て頻繁にして相場は幾分軟弱の底意あるも依然保合にて月を越り

文苑

四季雜吟

南軒

老たりな妻が加減の抱火鉢
來て見て待つ灯は行きぬ枯野原
見渡せば我身淋しき枯野哉
鴛鴦のかくれて寐たり屏風岩
小春日や空うらゝかに鳶の聲
鴛鴦のはなれて寐るや岩一つ
活けて尙袖に薰るや菊の露
影も香も月に匂ふや籬の菊
白菊の群花をしのぐ威嚴かな
行く秋を庵に默居の坐禪かな
行く秋を妻に死なれて子守哉
行く秋や水に流るゝものもなし
香もなき秋の行衞や松の風
木守の柿食ひ殘す鳥哉
御所柿のいささか澁き風味哉
野狐の化ける宵なり後の月
亂髮の狂女に逢ひぬ後の月
旗に代ゆ幟が野菊や天長節
少女子の菊をリボンや天長節
民草に菊の雫や天長節
百舌鳥啼いて立かけし竿の尖
物乞に物やる袖や露時雨

小說　紋のみだれ（十六）

永井櫻園

『眞箇御酒は御免蒙る。』其代に冷水、冷水を一杯頂戴爲やう。』云ひつゝ、松岡は苦しさうな息をフーと吹く。山田は手を拍つて下婢を召んで水を命じた、間もなく水を運んで來たを、松岡は舌皷打つて一氣に飮み干し、口の邊を手巾に拭ひつゝ

『時に何うだ、新年は何か面白い事は無いか、松の內に宅に居るなんか頗る不思議ぢやないか。』

『なあに何にも面白い事は無いさ、眞箇無爲にして化す方だが、しかし唯た一つ例の一件に大變者が顯はれたので、元日の晚から缺さず出掛て居るのだ。』

『例の一件……とは骨牌會か。』

『いゝや、骨牌は悉皆駄目になつたから、天で行つて見る氣も爲ないさ。君は相變らず行つてるのか。』

『僕か、僕は相變らず行てる所の騷ぢやない、今晚は徹宵練習して明日は東京かるた會に出席する意なんだ、旨く金牌でも取らう者なら、大祝宴會を開くぞ。どうだ見に出掛けないか。』

『大した勢だね。何處であるんだ。』

『日本橋の常盤木倶樂部さ。』

『見に往つても可いが、夜だと困るんだ。一體時間は何時から始るんだ。』

『時間は午前十時から始つて、午後の五時に閉會するのだ。夜は何處かへ出掛るか。』

『夜は今云ふ例に出掛なきやならんのだ。』

『なあるほど、君の所謂例のなるものは、彼の一件か、イヤ何うも御熱心の段敬服々々。何の事かと思つて居つたが、漸く解つた。はゝゝゝ。して見ると誰か妙音を弄する美人がお目に留つたと見ゆるな。』

山田はニヤリ／＼と笑ひながら

『まあ／＼然う言つたやうな理さ。』

と、煙草を輪に吹す。松岡も此の正月こそ骨牌に熱注して女義太夫などは、ツイ去年の秋頃までも山田と同じやうに女義太夫さへ云へば、隨分道の遠近を問はず贔屓の大夫の後を追駈て歩いたものである。それゆゑ今山田の話を聞いては聞かないで置く理に行かなかつた。

『君がそれほど熱注するやうな女義太夫なら定めて美人でもあり、且は其手腕に至つても斯界の儕の者に相違ないが、何處の寄席へ出てる、何と云ふ女なんだ。』

や〻乘地になつて問ひかける。

『寄席は翠本亭だが、名前だけは言はないで置かう。强ひて聞きたければ一晚往つて見るべしだ。』

松岡は啻實を自暴にスパ／＼ふかして

『可厭に勿体振るぢやないか、そりや那樣に旨い女が現れたんなら、聞に往つて見ても宜いが、眞箇旨いのか。』

『眞箇旨い、敢て勸める理ぢやないが、女義太夫をもつて任ずるものは、宜しく聽に往かなければ恥辱になる位なもんだ。』

『ふむ大した女が現れたもんだね。まだ若いのか……。』

『然うさ、年齡は確か十八だらう。』

『面は奈何だ。』

『頗る美しい。のみならず咽が馬鹿に美いのに、眞箇義太夫が上手だから耐らない。僕等は先代の綾之助は知らないが、世間の評判では綾之助よりか容貌も美ければ藝も巧手だと云ふ話である。何にしても人氣藝人が出來たものだよ。』

京城新報

統監府の威信

伊藤公の反省を乞ふ

近日發表せらるへき韓國の新官制は既に一ケ月前統監府の手により原案を作られ爾來參與官會議に上して數回の逐條審査を經遲くも數日前には發布さるゝ都合であつた而して新官制に就ては當局者に於て秘密を守り居ることなれば吾輩は未だ其內容を全知するを得ざるも或消息通の說くところによれば新官制の一部分に於て韓國政府者の爲に不利益の點ありたりとかにて彼等より統監府に向て抗議を申込だとのことである吾輩の信ずる處を以てすれば日本政府を代表する統監府の手によりて作られたるところの新官制は被保護者たる韓國政府者流の利害のために抗議を受けて改削すへきものでは無い、苟くも統監府の最上智識とも見るべき人々によりて立案せられ加ふるに參與官會議の審査を經て出來上りたる官制原案に對して一知半解の韓國政府者流に抗議抔を許すべきものではない

單に今回の官制に就てのみならず從來韓政府者流は動もすれば統監府の立案に對して苦情を申立てる風がある何故斯る弊風を馴致したりと云ふに由來統監府の立案に對して種々の口實の下に韓政府者が異議を挾むの場合は伊藤統監は常に彼等の主張を容れて自己の意見を制肘したからである

英國の印度に於ける佛國のチュニスに於ける執政上の例に見ても日本の韓國に對する如く柔軟にして且つ讓步的なるはない、伊藤公は懷柔手段を以て韓政府者流を翻弄せんと思はるゝならんも反覆常なき韓人等は公の威力に服從するが如く見せ掛け却て公を利用して公以外の統監府官憲及韓政府に入りたる次官以下を抑へんと企つるものなるやも知るべからずである、我輩は韓政府者に對し日々威信を減少する統監以外の官憲が日を經るに從ひ遂に韓政府者の爲めに輕視せられ何事をも成すこと能はざるに至らんことを恐るゝのである、設し將來斯る事のありとすれば此責任は閣僚等の受くべきものにあらずして正に統監の頭上に來るべきものなり公たるもの今に於て大に反省して可なり

路透電報

米國恐慌の影響(廿九日發)

米國經濟界恐慌の爲め知名の實業家にして自殺を遂げたるもの十八名に及べり

東京電報

清國答禮大使着期

清國答禮大使倫貝子は三十日神戶に着し十二月三日入京する筈なり

韓太子の旅館

韓國皇太子は十五、六日頃に入京し芝離宮を旅館に充てさせられ報聘大使一行は帝國ホテルに投宿すべし(同上廿八日發)

倫貝子の門司着(廿九日發)

清國答禮大使の一行は昨日午後三時門司港に來着せり

各地電報

暴徒義城を襲ふ

廿五日午後一時暴徒約百名義城郡に來襲せしも電線架設保護のため出張中の兵二名と共に擊退したる報あり(二十八日大邱發)

南倉洞の賊

昨日午前二時洪川邑より三里を距る倉南洞に暴徒約二百名集團せる確報を得洪山守備隊は巡査を隨へ討伐として進發し同六時集合地に突擊し賊を殪すこと十九多數の負傷者を出し潰走四散せしめ且つ乘馬六、銃器十六、彈丸六二五發、火藥其他雜品若干を鹵獲せり我に負傷なし(廿八日春川發)

雜報

皇族禮遇辭退希望

本邦輿論の代表者たる大隈伯の機關紙と見るべき報知新聞は伊藤統監が韓皇族の禮遇を受けたりとて統監自身を累する外何の意味なきことを論じ合せて公の同禮遇を辭退せんことを望めり

統監邸大臣會議

昨日午前十時より伊藤統監邸に於て大臣會議を開きたるが副統監を初め木內、岡、俵、新井、倉富各次官も參列し午後二時半頃まで協議を凝らしたる由にて多分新官制に對し各大臣より異議を申立てたることに就て討議せるものならんといふ

●統監送別會 李總理大臣は明一日午後より惇德殿に於て伊藤統監の送別會を催す由なるが尙日韓の重なる官吏を招待し午餐會を開くべしといふ

●李宮相渡日と署理 宮內府大臣李允用氏は今回皇太子日本留學の陪從として渡日するを以て其不在中は中樞院顧問官朴齊純氏へ署理大臣を命せらるべしと

宮內府官制細則

既報の如く宮內府官制は昨日を以て發布せられたるが其細則左の如し

第一條 大臣は帝室に關する一切の事務を總理し所屬官吏を統督す

第二條 宮內府大臣は裁可を經て帝室に關する諸般の法規を制定することを得

但し法律勅令に抵觸するを得ず

第三條 宮內府大官は前條法規に關して施行細則を定むるを得

但其重要なる者は裁可を經べし

第四條 宮內府大臣は宮內儀式祭典勳獎勳與及其他主任事務に關して臣民に命令告示するを得

第五條 宮內府大臣は臨時に勅を奉するか或は特定の規意によりて褒賞、救恤及贈賜の事を行ふを得

第六條 宮內府大臣は主任事務に關しては警視總官及地方長官に命令することを得

第七條 宮內府大臣は勅奏任官の進退は上奏し判任官以下は專行す

第八條 宮內府大臣は大禮其他祭儀に關して必要の場合には裁可を經て官制定限外に職員を臨時增加することを得

但し其事故畢了したる時は即時其解員を奏請すべし

第九條 宮內府大臣は帝室事務に關し必要の場合には委員を招き又は囑託員を招くことを得

但し其奏任以上の待遇に屬するものは裁可を請ふべし

第十條 宮內府大臣は皇族は旨意を奉じて表勳院總裁に示命し所屬官吏の敍勳は通牒す

第十一條 宮內府大臣は皇族及文武官の敍品を奉宣す

第十二條 宮內府大臣は事務の情形により所屬官吏に休職又は復職を命ずるを得但奏任官以上に屬するものは裁下を請ふべし

第十三條 宮內府大臣は所屬官吏を懲戒することを得

第十四條 宮內府大臣は事故あるときは次官を以て其職務を處理せしむることを得

(以下次號)

滿洲艦入港す

來月五日我國遊學の韓國皇太子及一時歸朝の伊藤統監一行を搭乘せしむる滿洲艦は豫定より一日早く昨二十九日午後一時仁川に入港したり信夫理事官は公式の訪問をなし滿洲艦よりは祝砲を發を放ちたり序に滿洲艦々長は海軍大佐大澤喜七郎氏なり

仁川停塲奉迎準備

來月五日韓皇太子御遊學の途に就かせらるゝに途次當仁川驛にて暫時御休憩遊ばさるゝやも計れずとて同驛にては一二等待合は裝飾して御休憩所に當つべし又プラットホームには花席を引き各入口には國旗を交叉して奉送迎する豫定なりと

三南鐵道の內容

三南の平野に跨り敷設せらるべき三南鐵道の設計に就ては已に屢々報ずる所ありしが更に其設計の詳細を聞くに本線は京釜線鳥致院若くば太田より分岐して公州より江景を經參禮に到る一線の叢頭に共同停車塲を設け尙進んで井邑、長城、羅州を經右は榮山江の流域に沿ひて務安を過ぎ木浦に達するものを本線とし參禮より更に分岐して群山に向ふものと木浦より馬山に至る橫貫線を敷設する由なるが現に井邑まで實測を了れるも暴徒蜂起の爲め測量は捗々しく進行せざるも明年三四月頃までには實地測量を了へ直に工事に着手し三ケ年後に木浦までの工事を竣成せしむる豫定にて木浦、馬山間の橫貫線は本線の完成を待て起工する筈なりと尙參禮に於る停車塲並に倉庫其他の敷地は既に大部分買收を了せりとの說あり

●軍艦歡迎相談會 豫定の如く昨日午後三時仁川民役所に於て軍艦滿州、宗谷の歡迎會開催に關し協議會を開けり

●大使隨員の旅費 報聘大使として本邦へ渡航する李載筧氏の隨員李達鎔、李恒九趙漢國の三氏へは千圓宛通譯官上村正巳氏へは八百圓旅費として支出することゝなれり

知島流配者の近狀

智島流配者中重なる人々の近況を聞くに前宮內府大臣署理李容稙は配所到着以來の刑餘者は普通の人格なしと稱し官衙にも出入せず頗る謹愼の意を表し時々日語學校に至り生徒に對し現今の狀態よりして日語を學習するの必要と又他の流配者に對しては言行動作を愼まさるべからざるを注意しつゝあり、前法部刑事局長李世植は常に開化を唱へ日本の文明を謳歌し日語學校を興し生徒には斷髮せしめ一意日本語の敎習をなし謹愼しつゝあり、前中樞院官林洛均は日常不滿の色を顯はし舊慣を墨守し或は淫酒に耽り或は他囚を煽動し民心を攪亂せんとするが如き不謹愼の行動往々なるを以て注意中なり

自衛團と良民

韓國內地に跋扈跳梁せる暴徒に備ふる爲めに自衛團なるもの組織せられたるは甚だ其機を得たるものとして大に之を歡迎する所なり然るに此團員の重なるものは一進會員なるが如く察せらる彼等が暴徒に備へ又は暴徒を檢擧するは地方安寧の保持上多大の功果あるは疑びなけれど彼等が韓國的に地方に於て我守備隊及び官憲の威を假りて暴徒にあらざる良民を捕へて酷待するものなしとも測られず之れが爲め却て良民の惡感を買ひ爲めに良民變じて暴徒となるものなしとも知るべからず現に一進會の自衛團援護會員の手に依りて暴徒の嫌疑者として捕へたる二名の如きは我官憲に於て取調べたる結果は暴徒にあらず純然たる良民なりしこと明かになり放還されたりと假令暴民ならずとも其嫌疑を受け短時日なりとも縲絏の辱めを受け囹圄の苦を見る良民として其に忍ぶべからざるや必せり此れ乃ち彼等良民に惡感を抱かしむる所以にして之れが自暴自棄となり遂に暴徒に加はるなしとせざるなり我れ聞く自衛團員たる一進會員の一行が地方狀況視察として出發の際曾禰副統監は同會の有力者に對し地方に於て我守備隊及び官憲の威を假り良民を苦むる如き行動なき樣懇々諭されたりと之に依りて觀れば副統監も斯る行爲なからんことを杞憂されたるや明かなり吾人は自衛團員が暴徒良民の區別を劃然識認して行動せんことを望むと或る韓人は語れり

武器彈藥を發見す

京城中署蛤洞二十三統三戶に居住する安基鎬は擧動怪しき者にて夙に其の筋にては注意中なりしが一兩日前同人が多數の武器及び彈藥を密藏することを發見し目下取調中なりと聞く

高山郡の賊

高山分派所巡査の報によれば十二日より十九日に渉り十數名乃至四十名の匪徒各團体を作り夜間高山郡各所に出沒し面長又は洞民に對し金錢、銃器、穀物衣服或は徵收せる納稅金の提供を命じ殊に百岐里に來襲せし賊の如きは村間に展望哨兵を配置し民家の捜索を爲したり此報に接し出張せるに暴徒は已に蹤跡を晦し行衛を失ひたり以上の匪徒は其數約六七十名を下らず軍銃を携帶し分派所を襲擊すべしと揚言しつゝあり

暴徒四百名と衝突す

去る二十日朔寧を發し漣川に向ひたる我部隊は麻浦より二里の起點に於て暴徒四百名と衝突したりと

七名の兵にして百名の賊を卻く

去る二十五日午後二時半暴徒百餘名慶尙北道義城に襲來す我兵二名警官五名協力して之れを擊退す

僞收租官の不正

宮內府の派遣に係る各道の收租官なるものは昨年限り廢止せられたるに拘らず近來猶ほ該官名を以て各所の驛屯舍音を任命し收賭の事を行ふ旨郡守に對し照會する向あり現に今回慶尙北道元收租官太義善なるものあり白樂田を玄風郡舍音に白樂仲を淸道郡舍音に徐柄圭を永川郡舍音に任命し此旨郡守に照會したる事實ありたるに付大邱支部財務官あり右の次第を本部に急報し本部より宮內府に交涉せしに同所よりは太義善を收租官に任したることなき旨回答ありたれば直に大邱觀察使に照會し管下各郡守を警戒し且つ太義善の所置を差止めたりと云ふ

稅關見張所竣工

當稅關にて當港に出入する船舶を檢せん爲め本月上旬より月尾島に見張所の建設に着手し居たりしが去る廿五日竣工の豫定なりしが種々故障起りし爲め延引し漸く今明日中に竣功するとのことなり

●軍需品揚陸 本日仁川港に入港すべき咸興丸は陳營具外軍需品千百十個を積み居る由なるが同陸軍運輸部にては直に揚陸し各守備隊に分送する筈なりと

居留民會

京城居留民團には昨日午後七時より南大門內保稅倉庫敷地を居留地小學校敷地に購買する件及び之に要する追加豫算に關し臨時居留民會議を開き議決す

●番地制定調査 從來仁川民役所に於ては戶番制を行ひ來りたるが今回番地制に改むべしと目下調査中

●斗量場委員會 昨報の如く仁川斗量場管理下附再審議に關し昨日午後二時より委員會を開く

●明石少將の視察 今三十日汶山の憲兵分遣所を巡視の筈

●仁川稅關長上京 宮木稅關長は總稅務司に事務打合せの爲め昨日上京せり

●富田民長の上京 仁川富田民長は昨日上京せり

●防疫員慰勞會 伊藤統監は過般虎列剌流行の徵ありし際防疫本部及び支部を設けられ之れが防疫に從事したる各委員を官邸に招待し本日午後三時より慰勞會を催さるゝと云ふ

●防疫慰勞會仁川招待者 本日午後三時伊藤統監は京仁防疫事務終了を祝せん爲め所理事官民長助役及關係者を官邸に招待せり

●ペチットの招宴 仁川英國商ペチット氏は昨日午後六時より自宅に日英の知己を招き小宴を催せり

穀物陸運の狀況(十月中)

釜山昨今の經濟的一問題たる鐵道の日韓連絡輸送につき釜山の中繼的位置に變動を與ふかの一點は大に價値ある注意の一資料たり而して米豆の盛出季たる去る十月中鐵道によりて釜山に出入したる穀類は米八千十二叺、麥四百十五叺、豆六萬二千六百九叺なり而て之を京釜鐵道の各驛に類別せば如左

▲龜浦 米三千三百七十叺麥十九叺豆三萬三千五百九十叺計三万六千九百七十五叺△勿禁 米四十六叺○五十二叺計九十八叺△三浪津 豆九百三十二叺△密陽 米三百十九叺麥二百二叺豆七千六百六十六叺計八千百八十七叺△榆川 豆二百五十九叺△淸道 米百一叺豆七百七十三叺計八百四十四叺△慶山 米四百四十七叺麥三叺豆七百六十四叺計一千二百十四叺△大邱 米百七十九叺麥百六叺豆一千三百四十五叺計一千六百三十叺△新洞 米四十七叺豆五十六叺計百三叺△倭館 米一千四百五十八叺豆三千九百九十四叺計五千四百五十二叺△若木 米百七十叺麥一叺豆四百十七叺計五百八十八叺△金烏 山米六十九個豆六百三十四個計七百三個△金泉 米八百個麥四十六個豆六百八十三個計一千五百三十一個△秋風嶺 米百五十八個麥二個豆十七個計百七十七個△黃泉 米十個同米四十六個△深川 米二百六十二個豆三十四個計二百九十六個△太田 米二百二十九個豆百三十二個計三百六十一個△芙江 米四十二個△鳥致院 米二百十五個豆六十二計二百七十七個△南大門 豆五十二個△洛東江 麥四十個豆一萬二百五十三個計一萬二百九十三個△進水 米四十二個豆八百九十四個計九百三十六個

海州だより

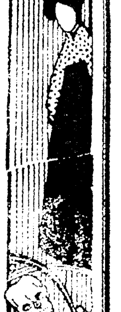
十三日延安郡永遂面に約四十二名の匪徒現はれ舍音(地主代理として小作人の取締を爲す者)六七名を捕へ他所に穀物の搬出を禁じ日本軍隊に銃器を引渡したることを叱責せりと▲米山七里洞長の言によれば十三日約十三名の匪徒現はれ要所に步哨を配置し洞長を捕縛し軍用金百圓を强請せしにこれに應ぜざりしを以て毆打を加へ金三十圓を强奪し去れりと▲匪徒の首魁は沈魯淑なる者にして馬に乘り各所に出沒し目下安島邑東北の地にありて防寒の爲めに盛んに掠奪をなしつゝあり

新義州だより 六花生

▲當地の寒氣は本年は例年と異なり非常に暖かく候、現に例年ならば今時よりもはや大同江上は堅氷を以て張り詰められ居り候が今年は未だ氷も薄く處に依ると河岸すら氷を見ざる所有之候▲從て未だ河面の渡行も出來ず候が是等は季候の暖かき結果ならんも又大に不便を感じ候殊に船舶の着け場なきには誠に困却の有樣に見受けられ候▲當地交通機關に就ては市內電話工事も大略其設備を了し候も未だ之が器械の着せざる爲め目下種々手配中に候が到着の曉は早速据付に着手し通話開始する由に候、又特設電話も之れが同時に開始する由に候が昨今希望者を募集しつゝあり候▲又郵便物に就ては當地と安東縣間との連絡は海上危險く爲め臨時接續の方法を協定し去る二十七日より臨時便手配中の由に候▲次に又當郵便局にては鴨綠江結氷の際とて渡航危險なるより安東縣に向つての通話は通常三倍以上の著るしき增加を來し之が爲め局員は非常に多忙を極め居り候▲豫て大倉組に於て受負經營中なりし當地附近の改良工事は去る二十三日を以て目出度全部竣功致し候▲今當地の最近の戶口數を其筋に就て取調べしに戶數五百四十餘戶にして人口千六百七十餘人、內男千〇八人女六百六十七人にて候が昨年あたりに比して著るしき增加を見候は眞に當地の爲め慶嬉しく候▲去る廿五日朝鮮市第二回目を開始致し候が其賣買の重もなるものは白米七石五斗大豆十石玉蜀黍三十石鷄二十羽鷄卵數百個にして內牛は十四頭價格の打合出來ざりし爲め賣買するに至らざりしもトモカク第一回に比すれば頗る盛にして漸次盛大に赴くべく豫期せられ候は同地の爲め悅ぶべき現象と存じ候

▲治外法權▼

肩の張る時按摩を要するが如く冬期に於て必要なものは火熱である、京城の住民は每年此冬期に入ると火熱問題の爲に頭腦の半を占領されるのである、日韓合同瓦斯會社が其筋から特許を得たのは數ケ月前の事である、而るに未だ瓦斯管の敷設は愚か瓦斯製造の敷地さへ手に入つて居らぬ樣である▲一体瓦斯會社が事業の進行に如斯遲々たるは何が原因かと云ふに余輩の見を以てすれば當局者が同社に與へたる特許命令が不完全なるからである、彼の杜撰なる特許命令、あんな者によつて營利事業が出來るものではないのである▲過日某氏は經濟協會に於て當局の經濟行政の杜撰なることを說いたが余輩も殘念ながら當局者を辨護するの勇氣を持たぬのである單に民間の企業を妨害せんとするなら知らず苟も公益の增進を計ることが當局の務めならばモ少し常識を以て瓦斯會社に臨まねばならぬ、例の統監府の餅を以て瓦斯會社を空椽屋扱ひにするのは間違つて居るのである▲余輩は一日も早く當局者が覺醒して自家の愚を悟り新事業撲滅策を捨てんことを要望するのである、聞くところによれば鶴原長官は今の日韓瓦斯に怨があると云ふ事だがソレは單に噂に過ぎまい、鶴原君とて私事を以て公事に及ぼすほどの愚物でもないから夫は單に噂に過ぎないことを余輩は信ぜんとするものである



「無限の熱血」を讀む 四

錦陵生

冷酷にして殘忍なる運命の神は飯來早々君をして又もや千仭影暗き奈落の底に陷らしめたり、君が一家は如何なればこそ斯く不運不命なりや、嗚呼皇天は君が一家を省みざる乎、神佛は君の赤心を察せざる乎、思ふて爰に至る君の胸中正に寸膓斷烈の感ありしや言ふ迄もなし

君が父は君が入團前北辰小學校の校番を勤め爾來老の身の孜々として怠りなかりしが或る事情の爲め同校は廢滅の已むなきに至りしより俄かに爰に餬命を繋ぐの道絶わければ今は一家七人路頭に迷ふの悲境に陷りぬ、此の時の君の心痛譬ふるに物なく父を助けて東奔西走彼に倚り是に訴へ、漸くにして雨露を凌ぐ許りの茅屋を借り受けしも衣食の窮苦は依然として變るなく殊に君が入團中一家が生計の爲め借財せし金は却々のものにて孰れも君が歸國迄の猶豫なりければ債鬼一時に門に迫り、强談硬請血も涙もあらざりしなり、而して毎時之が難局に當るは君が母にして君が母は實に此の苦悶煩慮に堪へずして寧ろ身を以て白川の深淵に投ぜんと意を決せしこと屢々なりといふされど君や當時區々たる一軍曹の身一ヶ月の月給としては僅か三圓五十錢に過ぎざるを以て又之が焦眉の急を救ふの術もなく空しく帶劍を撫して口惜し涙に掻き暮れ寧ろ覺悟を極めて息三寸を斷たんとせしこと間々ありしも、斯くては後に殘りし父母弟妹然どして我を慰めたり、斯くて家計は益々困難は赴くのみなりければ君が母は已むなく年長の妹二人を他家に子守奉公に遣り而して其身は淺ましくも破風呂敷を背負ひ秤を携へ朝は早くより夜は晩く迄紙屑買ひにと市中を廻はりにき

然るに或る日のこと君が上官なる某少尉と又君が恩人たる阪元參謀長とは君が一家の貧困なると且つ父は酒好きとを知れるに依り清酒一升と外に二瓶とを送られしかば父の喜び譬ふに物なく一家俄かに春めき渡りしが其背後には殘忍なる運命の惡魔の密かに其影を潛まし居るとは神ならぬ身の知る由もなかりき今其一節を擧ぐれば

サテ予の一家は常に貧苦の爲めに泣き明し泣き暮す慘怛たる境涯なりしに仁人惠與の美酒は暗怛たる薪小屋を照らし其夜俄かに花咲き鳥謳ふの春に遭ひたる如く一家殘らず平日の苦痛を忘れて笑ひろしめきけるに何ぞ圖らん迅雷烈風耳を掩ふの暇なく家主は安眠妨害なりと叱咤し怫然怒りて其の夜の中に立ち退きを命じぬ嗚呼情け容赦もあらぬ世は佛も亦在さぬか種々の辨疏も甲斐なく遂に放逐せられし一家は如何ともすること能はず其夜深更殊に雨雪頻りに到り北風身に浸む頃母と子供等は破傘の下に父は筵襤を頭より蓋ひて雨を凌ぎつゝ何處に便らん的もなく此屋を出て〻路頭に彷へば子供等の泣き叫ぶさま如何にも忍び難ければ母の同じ業の紙屑屋を頼み其の家の片隅に安堵したり

京城の新町名

京城現在町名の外韓人町に於ける日本人にして一人にても在留する所に新町名を附するとは既報の如くなるが民團役所には愈々本日左の如く發表したり

敦化門前通 鐘路通東大門通一丁目間より昌德宮敦化門に至る
黄金町 南大門通四丁目より竹園町接續點迄
長谷川町 一丁目、二丁目 南大門通三丁目より大觀亭横を經大平町二丁目に至る
新橋通 一丁目、二丁目 慶運宮布德門前より新橋を經て光華門通に接續す
若草町 一丁目、二丁目、及横通 草洞一帶の地 椒洞は横通と呼稱す
櫻井町 南井洞仁井洞晦洞
花園町 園井洞后洞後藝洞橋洞一帶の地
初音町 一丁目、二丁目 本町八丁目より光熙門通に至る
竹園町 一丁目、二丁目、三丁目 黄金町より光熙門通接點に至る
羽衣町 一丁目、二丁目、及横通 美洞香水洞堅井洞由洞
光熙門通 一丁目、二丁目 初音町接續點より光熙門に至る
茶屋町 一丁目、二丁目、三丁目 南大門通五丁目及大平町の中間にある舊名(茶洞門茶洞中茶洞下茶洞一帶の地)
大平町 一丁目、二丁目、三丁目 南大門通り一丁目分枝點より大安門前を經て長橋に至り鐘路通りに接續す
三角町 南大門通五丁目北に向て右側川辻洞紅門洞
長橋通 一丁目、二丁目、三丁目、四丁目及横通 黄金町長橋に至る(長橋洞水洞下洞惠民洞墨井洞一帶地)
笠井町 竹園町より大和川に至る笠井洞詩洞一帶の地
林町 一丁目、二丁目、三丁目 竹園町二町目より大和川に至る(大山林洞小山林洞)一帶の地
舟橋町 一丁目、二丁目、三丁目 竹園町三町目より大和川に至る舟橋洞坪井洞一帶の地
同胞町 光熙門通三丁目右側(門に向て)屈字洞兄弟洞一帶の地
芳山町 同 左側(同)斐山
蓬萊町 二丁目、三丁目、四丁目南大門一丁目新道より紫門洞を經て(上二下間)に至る
大井町 大井洞義洞一帶の地
玉川町 一丁目、二丁目 大和川東大門通二丁目の中間に在る玉房洞二間洞川邊洞一帶の地
二葉町 一丁目、二丁目 同一丁目の中間に在る梨洞滑洞同
仲町 同 中部洞 同
琵琶町 同鐘路通三丁目の中間に在る琵琶洞一帶の地
東雲町 同 東谷洞一帶の地
廣川町 同 廣耳洞同
幸町 同 一丁目の中間に在る富井洞蛤洞同
吉野町 一丁目、二丁目 古市町より南廟を經て軍用地に至る
光化門前通 鐘路通り一丁目西大門通一丁目接續點より光化門に至る
水標橋通 一丁目、二丁目 竹園町黄金町永樂町三丁目接合點より水標橋を經鐘路通三丁目に至る
獨立門通 一丁目、二丁目、三丁目、四丁目 蓬萊町分岐點より獨立門を經て弘濟院に至る
竹添町 一丁目、二丁目、三丁目 西大門麻浦に至る
和泉町 西小門より蛤洞に至る
西大門通 一丁目、二丁目 新橋通分岐點より西大門に至る
照義門通 大平町一丁目二丁目の間より照義門に至る
鐘路通 一丁目、二丁目、三丁目 耕橋通光華門前通接合點より東大門通一丁目に至る
東大門通 一丁目、二丁目、三丁目 鐘路通三丁目より東大門に至る
紅葉町 東大門より皇陵に至る紅樹洞漁井洞橋下洞橋洞一帶地
倭城台 倭城台一帶の地
惠化門通 一丁目、二丁目、三丁目、四丁目 東大門二丁目三丁目の間より東小門に至る
黄橋通 一丁目、二丁目、三丁目 東大門一二丁目間より弘化門前及大韓病院を經て惠化門通りに接續す
岡崎町 古市町一丁目より軍用地に至る葛月里一帶の地
御成町 南大門通一丁目を改稱す
古市町 一丁目、二丁目 龍山通一二丁目を改稱す
南大門通 二三四丁目は一二三丁目に改稱す

以上四十七町にして現在の町數を合すれば實に八十二町の多數に及べり之を見ても本邦人が如何に各方面に向て發展しつゝあるかは窺知せらるべし

五十八銀行員の金庫破り

同行庶務課長其他共謀して大金を竊取す

大阪北堀江通り四丁目五十八銀行の一行員は去廿五日の夜西署へ出頭し賊が同行の金庫を破りて大金を盜奪したる由を訴たり此訴に接したる警察署は百方手を盡して當夜の賊を探索せしも更に手掛なかりしが何ぞ料らん右は外部より入りたる賊の仕業にあらずして同行庶務課長野上增藏其他が共謀して行金を竊取したるなりと云ふ

●歎願して放火を免かる 愛樓郡內各所には十名乃至二十名の暴徒散在し十三日巡査郵便局員の引き揚げたるに乘じ十七名の暴徒現はれ分派所郵便局の家屋內に亂入し器物建物を破壞し郡守に對しては日本人と親密に交際せるを責め又人民に對しては日本人に賄せるを叱責し家屋に放火せんとせしより酒食を饗し嘆願し漸く其難を免かれたり暴徒は引揚げに際し三四日の後八十名計り來襲し分派所及郵便局宿舍を燒き拂ふべしと揚言し蹤跡を晦し何れにか立去れり

仁川の鐵道往生

一昨午前十一時頃仁川山根町より萬石洞に通ずる橋梁を去る約十間の處に一人の男無慘にも鐵道往生を遂げありしを發見したり其場の狀況を聞くに僅かに顏と頭を殘し他は悉く列車の爲めに壓礫せられて臟腑は路傍に露出し其場一面に血は流れて見るも哀れの有樣なりしと尙顏面によりて判ずるに年齡は三十五六にて既に死後一時間を經過し所持品は手帳、靴下一足、ズボンツリ其他にして手帳には京都府箕浦と書しあるも

酒の樹

▲米の生る樹は誰でも知つて居るが金の生る樹は誰も知らぬと同じ事酒の生る樹も恐らく知つて居る人はあるまい、と言つた所で其の樹の下に行くと一升樽や菰冠りがブラ下つて居る譯ではないがツマリ其樹の中から酒になる汁が生るので宜しく上戸連は容れ物を用意して行くべきである。

▲尤も處は少し遠方で亞米利加の西岸でおるが樹の形はドコか椰子に似て居るとの事である。

▲ツマリ其幹から流れ出る汁がチョット舐めて見ると初めの中は大層甘けれど暫らく盃杯に容れて置くと自然に醱酵作用を起して色も味も宛るで葡萄酒のやうに變つて仕舞ひサテ飲んで見ると矢張り異物のやうに陶然と醉ふさうである。

▲麥酒竹といふ人の隨筆を見ると酒樹といふ題で「ビルマ」に酒樹糖樹あり酒樹實大椰子の如し之を割れば皆な酒色瑩白にして甘くよく人を醉はしむと書いてあるして見ると何だか「椰子乳」の傳聞のやうにも考へられるが併し椰子乳ならば飲んだ所で醉ふといふ法はない筈である。

▲ダガ其の飲めば醉ふといふのが抑々可笑しい何しろ酒の生る樹といへば其の名を聞いただけでも餘程面白いではないか酒好きの人なら斯んな旨い話を聞くとさぞ喉から手が出るに違ひない。

▲而して此の樹の本名は「ラッフヒア、ブチニフエラ」と呼ばるゝさうである。

●荷役中即死す 一昨日午後五時頃仁川港に於て商船會社船河野浦丸が材木荷役中釣繩切斷し折柄直下に働き居たる江口組船頭江口新平(五十一)の頭部に落下し爲めに同人は即死せり

●仁川藝者の棚卸し 宿六のれ人よしにつけ込んで朝から晩まで立膝に長煙管で妓共に淫賣をさせるのが鱗の山の神といふ評判あるも僞か眞實か判らず從つて此樓の藝者は何れも意地が汚ないとの評判あれど實地に當つて見れば左程にもないらしい先づ姉株の大吉拍子、年齡將に三十幾歳、仁川古顏藝者の部に編入され目下特別の親睦議により稅金免除の請願中との事、藝者にも此歲にすれば身に苦が生ゐて來る丈手八丁口八丁れ座敷では滅多に三味はひかず只初めから終まで八字に裂けた口を明いて飲むのと饒舌るのとでれつ通し大底なれ客は呆氣に取られて只御高說を拜聽するのみ兎に角仁川藝者の元老として第一流に數ふべきか、咲太郎色の黒い事は仁川切つて他にはあるまじ一見恰かも辨天樣に墨を塗つた樣なり、然も黒いのは味が良いとやら藝の達者は此樓第二、聲も相當出るが少々鼻聲なり、然も氣性がサラ〳〵して居る丈座敷は一寸面白く只毛嫌ひの我儘が過ぎて客に無禮を働く段は謹むがよからん次に骸骨に皮を着せた樣な彌助拍子、こは先づ此樓の柔順妓としての一人又馬鹿でなし、藝は左程にもないがフトでは引けを取らず先づ十人並のた藝者さんならん、國吉拍子是れは前科者なり、といへば何だか泥棒でもした樣なれど違ふ、海に千年山に千年煮ても燒いても食わぬとの意味なり然も惡摺れして居らぬので客の氣受けは先づ上の方なり、若奴拍子咽の僞が氣になると見ゐて襟を深く合した所却つて愛嬌あり座敷は面白いけれど未だ〳〵修業が足らず力彌義太を本式に稽古したなら物になりそうにて清子拍子のれ座敷は先づ言はぬが花只遊ぶ暇に三味でもれ稽古をしたがよからん舞妓笑太郎年十三、色氣あり、但し未だ疑問なり、先天的の藝者として將來怖るべき小女とは此妓を措いて他に一人もなしオット落した二助姉さん鼻のほくろが目印しにて年が取つたのと江戸ッ兒と云より外に特徴なし次は朝岡

●天然痘 當地永樂町二丁目居留西田重太郎四男福重(四つ)は天然痘に罹れり

●懷中を掏摸取らる 昨紙には滊車中に鞄を掏摸取られしことを報せしが爰にまた旭町一丁目臨時測量部經緯輸班宿舍に滯在する江澤安太郎は昨日午前十一時五十分頃本町郵便局の出入口にて懷中をすり取られたり其の懷中には二十圓餘を納れありしと

●ボヤ 昨日午前三時頃南大門外停車塲前の韓人家屋より出火せしが折節通行の韓人がアイゴー〳〵と呼びしより近隣の人々飛び出て〻直ちに消し止めたり出火の原因は煙突を板を以て蔽ひありし其の板に添ふてマッチを積み置きしより煙突の火が板を焦しマッチに燃ゑ移りて爰に至りしものならんといふ

●面白い名 名は實のいゝ、と嘶く馬の毛に尼も白いのも有明や朝日、曙、東雲なんど〻眞面目に名づけし旅亭があれば喋々、鱗と乙に搦んだ料理屋あり然れど是等は左まで珍とするに足らざるが南大門外には愛親爺と稱する小料理屋あり明治町一丁目の某飲食店の女將はれ前コッチと呼び本町六丁目の某料理屋の女將は川底ナカエといつて能く客を沈沒せしむと聞きつるが爰にまたぬくも樓、よか樓、どま樓といふ新料理屋が開店せらるゝとのことさても此の名ありとすれば其の實は如何のものにや

廣告

人力車營業 明治町一丁目 京城組 電話九四二番

電話貳貳八番 開通
一たに送運搬請負
今般電話開通致候に就ては親切叮嚀を旨として御便宜を計り精々勉强仕候間御用命の程伏て願上候
京城南大門外一丁目 姬野荷馬車部

루ー라 ルーラー

會席御料理 並に仕出し大勉强仕候
京城本町座隣 電話六三〇番 蝶々

뚜라무 ドラム

原金旅館
本店 仁川理事廳通(電話三三一番)
支店 京城南山町(電話一〇七番)

京城博覽會
カステーラ 栗羊羹 一等賞 金牌受領
和洋御菓子麵包製造所 寒水堂
京城本町四丁目 貞島本店 電話一四番

廣告
牛肉 かしわ すき燒
永樂町二丁目赤門横手 福壽 初玉事 福田千[illegible]

丁稚入用 但十才以上十五才迄
京城本町一丁目(郵便局前) 若林支店 (電話一四七番)

廣告
往診午前 宅診午後
但し急患者は隨時往診 入院隨意
京城貞洞大漢門前 蘇生病院

工學博士 藥學博士 高峰讓吉氏發見
위창신약 胃腸新藥
타가 タカヂアスターゼ
韓國一手卸元 仁川倉知商會 電話一二三〇番

新柄着荷
嶄新流行の高等洋服地荷着仕候間親切叮嚀を旨とし大勉强廉價を以て精々迅速に調進可仕候
龍山榮町 田口洋服店

業務擴張廣告

謹啓各位愈々御淸穆奉敬賀候降テ弊店儀開業日尙ホ淺キニ不拘諸彦ノ御引立ニ依リ日增隆盛ノ域ニ相進ミ候段難有奉鳴謝候就テハ今回東京ヨリ斯業ニ精通セル職工數名ヲ雇ヒ入レ洋服一式廉價ヲ旨トシ御注文ニ應シ可申候間多少ニ不拘御用命被仰付度奉願上候也

鳶 東コート 毛布類 脊廣服 毛織物 各仕立物 文官服 警官服 刀劍類 付屬品

東京塚原支店
商 原雄吉
京城明治町一丁目

營業科目
活版活字鑄造 石版銅版 コロタイプ 彫刻諸印刷 諸帳簿 製本裝釘

本社 京城西署西小門內（電話三二三番）
仁川出張所 仁川港海岸埋築地（電話仁川二五五番）
日韓圖書印刷株式會社
東京出張所 東京市京橋區南鍋町一丁目十番地（電話新橋三九六二番）

京城博覽會一等金牌受領
純良醬油
登錄商標 登
釀造元 大阪府堺市 戶川源之祐
發賣元 韓國京城 戶川京城支店（電話六二九番）

特約販賣店
京城本町二丁目 本田滿壽男（電話四八番）
京城本町四丁目 前田喜聰（電話一三七番）
京城明治町一丁目 唐川立造（電話二六二番）
京城南大門通り 村田源次郎（同三五三番）
水原 德永仙吉

一各種石炭大販賣
大ノ浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
ストーブ用トシテ右三種取寄セ貯炭罷在リ御希望ニ從ヒ多少ニ拘ハラズ迅速御届ケ可申上候
三池粉炭
鍛冶用トシテ貯炭罷在リ多少ニ係ハラズ御用ニ應シ可申候
當社一手販賣炭左之通リ
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大ノ浦五尺、大ノ浦三尺、笹原、滿ノ浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等
三井物產合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

直輸入荷着
セメント特約販賣
新荷着
浪板 キ
廉價大販賣
建築及土工用具並小金物類一式取揃申候間御用命被仰付度候
仁川港本町通り 秋田商會鐵物部 電話一一六番

統監府御用
各官衙御用
荷物荷造及運搬
伊藤組
本店 曙町 營業部 本町三丁目
伊藤友松（電話七百三十二番 四十番）

廣告
齒科全般ノ治術
米國最新式義齒
診療時間 自午前八時至午後九時 齒痛患者ハ何時ニテモ來院シ難キ御方ハ往診ニ應ス
京城本町六丁目（藪蕎麥橫丁）
米國齒科醫學博士 女醫 中村安子

熊平製造金庫
東京 竹內製金庫
大阪二重版並ニ回轉式 消火器
韓國販賣部 京城本町二丁目
熊平商店 電話六二四番

綿類卸 吳服 新蒲團
京城明治町一丁目 唐川商店

西洋御料理宴會
日本人俱樂部
京城南山町三丁目（電話一二三番）

銀行一般業務精々御便利に取扱申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓
株式會社 十八銀行 京城支店
京城南大門通（電話四二〇）
本店 長崎市築町
支店出張所
韓國 京城、龍山 仁川、木浦 釜山、元山 濟州、群山
日本 大阪、熊本 佐世保、嚴原 五島、壹岐
其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日步壹錢四厘）
長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候
資本金三百万圓
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣
株式會社 第五十八銀行京城支店（電話五八番）

爲替取組先

畿內	東山道	山陽道	南海道	北海道	臺灣
二十七ケ所	十三ケ所	七十五ケ所	二十三ケ所	五ケ所	二ケ所
東海道	北陸道	山陰道	西海道	韓國	淸國
二十八ケ所	十ケ所	十三ケ所	三十ケ所	九ケ所	一ケ所

本店 東京市日本橋區兜町
內地支店及出張所 大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、仁川、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店及出張所 下關、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城
淸國出張所 安東縣
株式會社 第一銀行京城支店
電話番號 營業部 一一番 當用營業部 同 三二一番
總支配人 市原盛宏 國庫部 六二一番
副支配人國庫部長 三島太郎 用度係 六二二番
副支配人調査部長 竹山純平 分拆所 六二三番
副支配人營業部長 木村雄次

金物部
金釘 洋鐵 鋼類 土工用器一式 洋物類 諸油 種具類
和洋物商 和金物卸部
藤本釘
トタン平浪板 廿六番 廿八番 卅番 各種
精糖 メリケン粉
和洋紙類
金庫及度量衡
京城本町五丁目
藤本次郎本店 長電四五番

南山町壹丁目
日韓印房
諸文案 印判 印器 附屬品

私儀京城漢城病院藥劑主任を辭し左記に開業候間一層之御愛顧願上候
龍山櫻町
藥劑師 正八位勳六等 川瀨一五郎 商號 開壽堂藥房
營業科目 處方調劑 藥品 賣藥 衛生材料品其他種々

日本郵船株式會社仁川出帆廣告
仁川海岸通 貨物及船客取扱店 郡回漕店 電話三九番
京城南大門通 巴商會 電話三〇六番

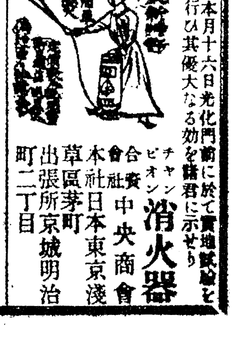
● 釜山長崎門司神戶行 山東丸 十二月二十五日後三時出
● 群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 浦汐丸 第一オハヨ號 十二月一日後三時出 月 日後三時出
● 大連、大沽行 酒田丸 十二月卅一日後一時出
● 大連行 營口丸 高砂丸 十二月十五日後一時出 十二月二十一日後一時出
● 大連、秦皇島行 山東丸 十二月十七日未明出
● 鎭南浦安東縣行 第一オハヨ號 浦汐丸 十二月七日後三時出 十二月七日後一時出
● 釜山出帆元山、城津、浦鹽行 淡路丸 十二月四日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

大阪商船株式會社仁川出帆廣告
仁川支店 電話一二三番
切符發賣所 仁川稅關波止場出張所 京城本町通り角發賣所
荷客扱店 堀田組

● 關門、神戶、大阪行 基隆丸 十二月十三日前十時出
● 大連、門司、橫濱行 勝山丸 十二月四日正午出
● 關門、宇品、神戶、大阪行 馬山丸 咸鏡丸 十一月 十二月五日 日前十時出
● 群山、木浦、釜山、關門、神戶、大阪行 群山丸 木浦丸 十二月六日後五時出 十一月 日後五時出
● 群山、木浦、馬山、釜山、關門、神戶、大阪行 千賀丸 筑後川丸 十二月三日後五時出 十二月九日後五時出
● 鎭南浦行 咸鏡丸 十二月一日後一時出
● 木浦、釜山、嚴原、郷之浦、長崎行 木曾川丸 十一月 日前十時出
● 長崎行 信濃川丸 十一月 日前十時出
● 鎭南浦、大連行 木曾川丸 十二月七日後四時出

貸席待合
末乃花
南山町一丁目（植村病院前）
客室は淸潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候

本月十六日光化門前に於て實地試驗を行ひ其優大なる効を諸君に示せり

チャンピオン消火器
合資會社 中央商會
本社 東京淺草區茅町
出張所 京城明治町二丁目